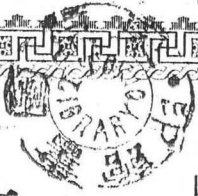


沖繩県漁業調査 原田喜久治外4名

民贈

(明治廿五年九月廿六日遞信省認可) (明治廿一年二月廿二日内務省許可)



明治廿七年九月廿五日刊行

大日本水産會報

第百四拾七號

大日本水産會報第四百四拾七號目次

○論 說 日清戰爭ノ水産貿易ニ及セザル影響

○質疑應答 船山ノ害ヲ防ク方法

○寄 書 沖繩縣漁業調査○安房國長狹郡天津町漁業組織

朝鮮海漁業協議會ノ概況○兵庫縣北部水産業組合會○第五回水産品評會○第五回水産品評會私評○村田幹事長石川縣巡回日記○朝鮮乾鰯及支那油糟ノ輸入高○佐賀縣小川捕鯨會社ノ獵獲○獨逸水産會ノ懸賞問題○壹岐乾鰯業ノ進歩○德島縣ノ豐漁○水産傳習所生徒ノ勉勵○同所卒業生ノ雇聘○大日本水産會ノ入會及退會者○水産傳習所彙報

○雜 錄

○商 事 明治十七年七月水産製品輸出港別表

大日本水産會報第四百四拾七號

○論 說

○日清戰爭ノ水産貿易ニ及ホセル影響

昨明治廿六年度ニ於ケル水産物外國輸出ノ總額ハ之ヲ前年度ニ比スレハ九拾餘萬圓ヲ増加シ十ヶ年前即明治十七年ニ比スレハ殆ト數倍ノ増加ニシテ實ニ未曾有ノ盛況ヲ呈セリ而シテ其原因タル或ル事故ニ由テ一時偶然ニ盛況ヲ呈セシニアラス海外諸國ニ於ケル需用ノ途年ヲ逐フテ開暢シ販路漸ク擴張セルニ原由セルコトハ既往各年ノ輸出總額ヲ比較シ且ツ其行銷ノ狀況ヲ知ラハ之レヲ詳悉スルニ足ラン(會報第四百四拾六號所載廿六年貿易概覽抄畧參看)昨年輸出ノ狀況夫レ斯ノ如シ本年度ニ至テハ八月以後ヲ對照スルニ由ナシト雖其以前ニ在テハ前年來最多額ト稱スル昨年度ニ比シテ尙ホ著ルシク増加シツ、アルコトハ第一表ニ由テ明カナリ

第一表

大日本水産會報第四百四十七號 論 說

元來氣仙地方は船の焚き方を粗略にする所なれば前記の如く注意して焚けは虫害を防ぐを得べし
 別法は揮發石油を以て溶解したる「コールタール」を塗るにあり是れ最も有効なり但し之を溶解する
 には一時に揮發石油を入れるへからず少しづつ注下して攪拌し能々混和すべし一時に注加すれば溶けさ
 るものなり今之を以て一間四方を塗るには「コールタール」一合五勺(壹錢)揮發石油七勺(六厘)にて
 足るべし揮發石油は東京相場場壹升拾三錢
五厘壹弁入壹兩を賣買する相場
 此「コールタール」と揮發石油の混合液を塗るには成るべく乾きたるときを善とす故に鯉漁船なれば
 本年の秋陸上げし明年漁期前に至りて塗るべし但し之を塗る際には一人は火を焚きて船舫を温め一人
 は傍らより手早く之を塗るへし漁期中に塗らんとするには殊に能く注意して焚きながら塗り其乾燥す
 るを俟ちて進水すべし但し務めて薄く塗れば船底の外而は平滑となり大に船の進行力を補助する
 も其塗り方濃厚に過ぐれば多少進行力を妨碍するものなり此の塗り具の防虫有効期限は夏期大約三ヶ
 月冬期大約四ヶ月なれども場所によりて多少の長短ありと知るべし之を塗り換へんとするには第一法
 の如く浸水部に遍ねく火熱を加へて前に塗りたる分を悉く焚滅せしめ然る後前記の如くして之を塗
 るべし但し塗りたる「コールタール」の一部剝け落ちて已に害虫の喰入りたる跡あるときは能く焚き
 て必ず遺漏なく虫を殺したる後に塗るべし虫若し死せずして板裡に潜伏しあるときは假令外部のみ

を塗るも内部に於ては依然として害を爲すものなり
 害虫の喰入りたる穴は地方に由り木釘を打込めども適宜に練りたる「セメント」を以て穴(充分に乾燥す
るを俟つべし
水分残り居る時は「セメント」は板に固着せるなり)を填むるを宜しとす
 漁船を造るには成るべくは松材を用ふべし松材は多年の間た「テルメン」の氣を充分に含蓄するもの
 なれば此の氣の存する間は普通害虫の發生を豫防するの効あるものなり

○ 寄 書

○ 沖繩縣漁業調査

編者曰本年五月水産調査所より沖繩縣下先島沿海漁場調査及漁業試験を鹿児島縣大島郡金久村原
 田喜久治氏外四名に委託ありしに今回六七二ヶ月間の成績を報告せり依て左に之を抄出して該縣
 水産の狀況を知るに便す

漁船の組織 漁船は鯉釣船長サ三拾八尺巾拾尺の分二隻毎船漁夫七名を乗込ましむ鯉釣船長サ三拾三
 尺巾七尺五寸一隻此船は餌魚網舟にして漁夫五名外に納屋組と稱して製造に従事するもの七名あり又
 外に鯉釣舟一隻前者に均しきものあるも漁夫欠乏の爲め休漁中なり但し鯉釣船は本年渡航の季節少し

く後れ己に南風に變せしを以て沖繩縣下那覇以南則ち先島に航するを得ず依て不得已慶良間島久米島近海の漁場探險に従事せしも未だ鰹の季節に迫らざるを以て充分の漁獲を見ず依て尙鹿兒島縣下大島近海に於て試漁せんとし己に本月初旬右鰹漁の一行は那覇より大島へ引返し目下該島に在りて試漁中なり

漁場の位置 沖繩縣石垣島平久保岬より崎枝岬迄拾數里の間陸地を距る二三里の沖合同島白保岬より伊原間迄拾數里の間陸地を距る同二三里の沖合又は西表島舟浮港より鳩間島の間同鹿川灣より崎山村迄の間陸地を距る二三里の沖合にて數ヶ所に好漁場を認む久場島(海圖に所謂突開群島)近海は未だ充分の探險を盡さざるも其沿海魚族の群來夥多なるを以て漸次好漁場を發見するの日あるべし

與那國島の近海鰹の群遊夥多なりとの事なりしを以て該島調査の爲め渡航の事に決し六月下旬に石垣島を出帆せしも爾來未だ歸帆せざるを以て見れば該地方好漁場を發見し漁業又充分の望みあるものならん追て歸帆の上次に於て報告する事あるべし

魚族の種類及魚族來去の季節方向 魚族中重なるものは鰹の二種及海鼠、烏賊、飛魚、此外瀬魚とて所謂石花礁に附遊する者多くはタバメ、シツルギ、アラ、小なるは二三斤の者より大なるは二三十斤の者其他眞青色眞赤色班紋ある諸種の魚族に乏しからず

鰹の種類は「ツマ白」最多く「ツマ黒」「ヤッ」之れに亞く其他は「バカ」「シユモク」「カセ」鰹等あり小なるは七八十斤より大なるは七八百斤に至る而して「ツマ白」「ツマ黒」「ヤッ」等の鰹は市場に於て價格最上位を占む

魚介類は丁貝(所謂眞珠貝)夜光貝高尾貝等重なるものとす多くは沖繩縣糸満人(沖繩本島々尻系諸村のもの本島人中此村のみ漁業に従事す)採取に従事せり

魚族來去の季節に付ては調査精確ならざるも鰹群遊は春季陰曆二月より五月に至るの候及秋季八、九十の三ヶ月は最も適應するの季節ならん而して春季は主として陸地に接近せる淺瀬に在りて秋季は多く深底に在るもの、如し鰹は黒潮に従ひ回遊するものにして所謂上り鰹なるものは舊一、二、三月下りは九、十、十一月の候最好の期節なるべし其他魚族の季節等は尙充分調査を遂げ次期或は最終季に於て詳細なる報告をなすべし瀬魚の如きは四季絶ゆるとなきもの、如し

魚族捕獲の方法 鰹は延細釣にして幹繩一拼の長サ凡そ百二三拾尋芋は百目乃至九百目一拼に鈎五本を施す枝細の先きに長サ壹尋半餘の眞鍮鎖を施し之に鈎を附す而して一隻の漁船に概三十拼乃至四十拼を有す配繩は櫓若くは帆走する際之をなす其配り始の一端に木錨と浮樽(水底の淺深に應じ繩を付す)とを結付して投し各拼の結び目に小石を結付し配り終りに亦一個の木錨と浮樽とを付すると始めに同し而して延細

十二

を了り適宜の時間を經て操繩捕魚に着手す又浮ク細とて細を海底に沈めざる者あり是は前漁法と異なり各拵の繼ぎ目毎に長サ二三間の竹若くは浮樽を附し配り了れば直に右の浮樽を巡視し魚躍るあれば之を水中に引込むを以て直に其浮子を取りて漁獲するものなれば其勞前者に比し尠なきも多くは夜中に於て配細をなすものなれば其浮子を認め難し因て目下適當の方法を研究せり

鰹は一般の漁法と異なるなく竿釣にして餌魚はキヒナユ(方言スルミユ)を樽に生かし艫及舳に在りて之を釣る

鰹の餌魚は出漁の前近海に於て延繩を以て瀬魚則ち「タハメ」、「クツルキ」、「アラ」、赤青色、其他小鰹等を得て之に充つ一鈎凡そ一斤乃至二斤位を用ゆ其他糸滿人か剝舟にて一本釣をなす時は重もに鹽豕を用ゆる由なるも配細には甚だ不經濟なり

製造及販賣 鰹は第一鱈に可成肉の付かざる様注意して乾製し油は製して罐詰にす肉は多くは附近の土人に賣却す又「ミガキ」とて乾製し若くは鹽漬となす

鰹は昨年分今春長崎にて販賣したるもの「ヤツ」、「ツマ白」、「ツマ黒」、「バカ」、「シユモク」等込にて百斤四拾三圓大坂にて販賣せしもの同四拾六圓肉は鮮肉にて土人に賣却するもの壹斤壹錢に當る「ミカキ」、鹽魚等は未だ販賣せず長崎にては「ミガキ」の相場百斤七圓位の價格を保つと云ふ油は壹斗入罐

土地にて八九拾錢より壹圓迄にて買手少からず

鰹は節に製し骨頭は肥料に製す而して煮汁は肥料若くは煎汁に製するの見込あり

那覇港慶良間、久米各島及大島近海探險の景况 那覇港近海亦魚族に乏しからず糸滿人在來の漁法に捕獲する者多くは「青マツ」、「赤マツ」、「タバメ」、「クツルキ」、飛魚、「スル」、「キヒナゴ」其他諸種の魚族あり鰹に至りても亦西南海其群を見る少なからず只鰹釣には其餌料たる「スル」、「捕獲に困難を感ず吾探險船は内地に用ゆる餌魚取網を以て屢試みるも奈何せん底質多くは石花礁にして網を投するに餘地なく充分の好成績を得ざりし此「スル」、「捕獲に就き研究を得は將來有望の漁業なり慶良間近海各種の魚族は前記那覇海の種族と敢て異なるなし鰹鰹も同様なり而して該地方は「スル」、「ムロ」の群遊夥多にして且つ那覇海と異り或場依り彼の餌魚取網を投する處ありて那覇海に比せば其捕獲容易なり然れども本年は未だ下り鰹の季熟せず充分の收穫を見ざりし

久米島は大抵前項と異なるなし該島は沖繩縣水産物中輸出の多き第一位に居る烏賊の産出地にして其最好季節は八、九、十月頃皆糸滿人の捕獲するものに係る只可惜は未だ其製造方不完全にして内地の製品に比し市價漸く半額に過ぎず今に於て充分の勸誘改良を施せば内地の製品と比肩する豈に難事ならんや水産家たる者宜しく着目すへき事業なり

一十二

大島近海の魚族も亦那覇近海の種族と大抵異なるなし只那覇港の者は多くは一種の臭氣あり本島の物は頗る佳良なり吾探驗船の内鯉船手船の二隻は本月六日慶良間を出帆せしも天候の爲め沖繩縣名護運天等に寄泊し漸く十五日に大島瀬戸内灣古仁屋村に着船す越て十六日兩船手を分て先づ第一に餌料の漁場を探る本島は那覇と異り瀬戸内其他良好灣多く灣内至る處「キヒナゴ」の群遊を見ざるなく且つ底質は同く石花礁點々散在するも網を投する場所に乏しからず一度之を投すれば立處に一斗乃至二斗の餌魚を捕ふる容易なり十七日土人の少し漁業に通する者一名を雇ひ東海住用方の沖合に出て鯉の漁場を探る此日數日來の旱天續きにて海上亦一點の風波なく鯉漁には最も不適當の天氣なりし此日は終日一の鯉を見ず唯季節には鯉の群遊を見ると云へる一漁場を發見し此處に投錨す深さ八拾餘餘翌十八日旱天微風あり依て錨を上げ帆走しつゝ探驗す忽ち鯉の小群を見る直に餌魚を投するに跳遊之に附く因て帆走を止め直に鈎を下す一時間餘にして百四五拾尾を獲たり歸りて之を節に試製するに最好の結果なり爾後屢々出漁多少の漁獲あるも未だ季熟せず舊八月中旬後に至れば充分の收穫ある疑なきを信ず而して漁場は右の外徳之島と大島の間及大島西北海則ち西方西古見村の沖合より大和濱方今里村沖合に至るの間數ヶ處の漁場を發見す而して吾探驗船は本年下り鯉の季節に於て充分の好成績を得て報告する將に遠きにあらざるを信す

○安房國長狹郡天津村漁業組織

森山 朔介
竹内 徳太郎

當地は釣業尤も盛にして網業は微々たるを以て他地方の如く釣業者と網業者と分業するとなく釣網兼業者にして網漁は殆んど釣漁の餘業たるか如き觀あるは全く朝夷郡白濱村と相反せり而して漁業の重要なものは釣業にては鯉釣及延繩釣にして網業にては先づ八田網、七日網等とす

漁業者の戸口は九百八十八戸人口三千九百八十二人にして獨立營業、共同營業、受仕入營業の三種あり第一獨立營業は規模小にして一家族を以て營業し得へき小漁業者の間に行はれ雇夫を使役するもの鮮し第二第三は細船鯉釣及八田網の如き大漁業者に行はるゝ所にして營業者自ら船長となり雇夫を使役するものあり或は漁業は一切雇夫に一任して已は唯其營業にのみ従事するものあり而して雇夫の數尤も多きを要するは此種の漁業なり

當地の水夫は概ね一期雇にして漁職切替期毎に解雇し更に雇入れをなすものは別段雇主と水夫間の關係に付き著きことなしと雖も從來兩者間に於ける弊害は務めて之を矯正し雇主は實意を以て水夫に對し水夫に於ても亦放恣の所爲なく着實に其業に従事す一旦雇入れし水夫其後假令好雇主ありと雖も恣に轉雇するを得ざる義務を負る者にして若轉雇せんとするときは必ず雇主の許可を得ざるべからず概して雇主と特別の關係なき者に至ては普通雇主と被雇主との如き關係に過ぎざるなり然れど